

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校采井協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 池田高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和6年1月24日(水) ※当日大雪により書面開催
- 3 参加者

会 長	小林 月子	サンビレッジ国際医療福祉専門学校長
副会長	西川 昭	地域商工会等代表
委 員	高橋 利行	池田町教育長(欠席)
	宇野 秀宣	神戸町教育長(欠席)
	河村 茂雄	池田町立池田中学校長
	岡田 勝彦	神戸町立神戸中学校長
	寺戸 敏彦	池田町杉野区長
	高橋あゆみ	神戸町立北小学校読み聞かせボランティア 神戸町立図書館運営協議会委員
	安田 正博	県青少年健全育成指導員
	林 康彦	育友会長
学校側	鈴木 彰	校長
	栗原 利樹	教頭
	若園 佳織	事務長
	吉田 一臣	教務主任
	稲葉由里子	生徒指導主事
	古山 克幸	進路指導主事

4 会議の概要(協議事項)

「令和5年度 自己評価・学校関係者評価」について

①教育課程・学習指導

意見1：学校評価アンケートでは、生徒・保護者共に9割を超える肯定的な高評価が得られ、各教職員による日々の研修成果が出ている。Plan(計画)→Do(実行)→Check(評価)→Act(改善)のPDCAサイクルを導入した授業効果の今後を期待している。

意見2：授業内容や学習指導を工夫して、生徒の能力や学習状況に応じた授業をしている。キャリアステージにつなげる学びは、小学校時代から徐々に積み重ねていくことにより、より深い学びになると考える。中学校と連携して深めていくことが大切である。

意見3：学校評価アンケートは肯定させる向きになっていないか。生徒は目立たないように周りに合わせているため、自分に打ち込めないもどかしさがあるかもしれない。いいように回答していないか確認の必要がある。生徒も教職員も共に学ぼうとしている姿勢は素晴らしい。

意見4：深い対話で、総合的な探究の時間が充実することを期待する。

意見5：これまでの会議の際に、養老鉄道や池田町の魅力発信の活動について見た。関係諸機

関と積極的に連携を図り、生徒が興味関心のある内容を見出して主体的に学びを深めていくカリキュラムの工夫が素晴らしく、そのことが総合的な探究の時間に取り組みやすいとする生徒が93%という成果に結び付いている。

意見6：学校評価アンケートにおける肯定的な意見が9割に迫っている成果が素晴らしい。高等学校においても、主体的・対話的で深い学びを目指す授業実践を指向しているとのことであったが、中学校でも同様の研究実践を行っている。中学校で身に付けた学び方を高校でも活かしていけるというところに良さがある。

中学校においても、グループの学び合いなどが定着してきており一定の成果を上げているが、学習集団の学力に合わせたグループ学習の在り方を追究していることが、次年度の目標ではないかと考えている。高等学校においては、中学校よりも生徒間の学力差が大きくはないように思うので、生徒の学力水準に合わせ学び合いの工夫をしていくとよい。

総合的な学習については、その方向性を模索している段階であると考えられるが、地域との連携を大事にした取り組みをされているので、活動実績やノウハウを積み重ねていけるとよい。

意見7：総合的な探究の時間を主軸とし、教科横断的な学びを実行する、という点は大変よい着眼点である。これから生徒の満足度をあげるためにも、どんどん生徒を地域の中に出し、そこで「困る体験」「考えないと前に進めない体験」などをしつつ、その過程で「自分」を発見し「地域課題」を発見するのがよいのではないかと。どんな「場」を選ぶか、生徒にどんな機会を提供できるか、池田高校と地域の知恵の出し比べである。私も是非協力したい。

意見8：適切に指導していると考えます。

意見9：「総合的な探究の時間」について一般に、教職員が思うほど生徒には好評でない印象がある。導入されてから10年以上たつが、根本的変革があってもいい。教科の中に繰り込む等、いろいろ工夫してほしい。

②生徒指導・教育相談・特別活動

意見1：学校評価アンケートで、生徒・保護者共に昨年度をさらに8%以上上回る高評価が得られ、各担任の生徒個々への指導効果が評価されている。今後も、生徒個々に応じた指導が求められる。

意見2：いじめや差別については、非常にデリケートな部分である。私も高校生を持つ親として、実際どこまで情報を共有してよいのかと感じる。学校側と生徒と保護者の連携を大切にしつつ、個人情報も守らなければならないと思うこともあり、深く立ち入ることができないこともある。

意見3：子どもたちは、自分の道を進めばいいのに他人と比べて自分が劣っているかのような感じているのかもしれない。友達の中で自分だけできないとか、自分が遅れているとか感じると、イライラや不安になり、いじめやちょっかいをしたくなる。自分は自分、他人は他人と思えるような環境があるとよい。何か打ち込めるものがあると、ストレス発散にもよい。

意見4：悩み相談に対する支持の向上や遅刻回数の減少など、教職員の熱心で親切な対応のおかげである。長期欠席の生徒が増加しているとのことだが、その原因を共有することと、

自分の力で解決できることが大事であり、改善方策案は適正である。

意見5：これまでの授業参加では、どの教室に入っても生徒が前向きに授業に取り組み、落ち着いた雰囲気を感じた。また、登校時に気持ちのよい挨拶をしてくれる池田高校の生徒もおり、豊かな心が育っている。不登校については、中学校でも同じように課題意識を持っており、現状の交流や指導の方向について共に考える場があるとよい。

意見6：アンケートで肯定的な回答が多くなされており、着実に成果を上げているようにとらえられる。遅刻予防、いじめの未然防止等、具体的な対策や取り組みがなされている。中学校でも同様の取り組みを行っているので、機会があればノウハウを共有できるとよい。

意見7：不登校対応については、高校は中学校と異なり、相談室などの機能が充実させられないという事情があるかも知れない。中高間で連携をとって、生徒自身が自分らしさを認識できるようになることがカギである。

意見8：教職員による生徒指導に対する評価は、生徒からも保護者からも高いと思われる。これからも一人一人の生徒の変化に注目して、早期に対応していくとよい。指導が効果をもつのは、教職員と生徒の間に信頼関係があるときである。教職員間で情報が共有されると同時に、生徒に対する「暖かい視線」をこれまで同様大切にすれば、課題は解決に向かうと信じている。

意見9：保護者対応等、適切に対応している。

意見10：ボランティア部の活動は素晴らしい。全校的な取り組みとなるとよい。

③進路指導

意見1：生徒・保護者共にアンケートで80%を超える肯定的な評価が得られ、保護者参加型の進路指導が受け入れられている。

意見2：進路が多岐にわたり指導も大変な中、アンケートで保護者から80%以上の満足を得ていることはありがたい。「キャリアパスポート」を活用して、生徒の自己肯定感を高めるよう促している。ガイダンスやインターンシップによって進路に興味を持つことが方向性を見出すのに有効であるので、今後も継続をしてほしい。

意見3：進路に関して何でも相談できる環境づくりや、インターンシップではなくアルバイトという形の実体験も考えられる。インターンシップは企業の質で大きく変わる。

意見4：地域連携や体験活動をすることで多角的な視点で物事を見ることができるとは、小論文を書くのにも役立つ。

意見5：進路に関わる取組が、きめ細かく段階的に行われていることが分かった。中学校でも1年生で職業講話、2年生で職場体験、3年生で進路説明会等を段階的に行っている。高校1年の6月にはコース登録が行われるとのことなので、中学校でもより一層自分の進路を見つめる機会を充実させていく必要があると感じている。

意見6：アンケートで肯定的な意見が多く、着実に成果をあげているととらえられる。大学入試制度の変更への対応、地域との連携など社会の変化に対応した進路指導が展開されている。

意見7：進路指導に対するアンケート結果は、満足度が80%以上と良好である。池田高校の素晴らしいところは、進路についてもっと大きな観点を提供していることである。著名人による講演会などはその代表的な試みである。こうしたことでhow to（方法）だけでな

く what to (内容) に対する生徒のセンス、感性を磨くことができる。素晴らしい環境である。

意見8：生徒の意向を十分に尊重しながら、適確な進路指導をしている。

意見9：スタディサプリの活用が進んでいるようだが、個々の活用を全体にどう生かしていくのか知りたい。

5 会議のまとめ

第3回学校運営協議会は、本来であれば、生徒や保護者等による学校アンケートの結果を踏まえた自己評価や今後の改善方策等を説明し、委員の皆様からご意見を頂戴して協議を深めたり、「総合的な探究の時間」の取組の様子を実際に見ていただいたりする予定であったが、大雪警報が発令される荒天のため急遽、書面開催とした。

意見交換などの直接交流を通じて議論を深めることができなかつたのは大変残念であるが、委員の皆様からは、本校の地域連携を含む教育活動に対する肯定的な評価を得るとともに、今後さらに推し進めていくための提言や協力の申し出をいただくことができた。

こうしたご意見を基に、「地域の学校」として本校に寄せられる期待に応えるべく、地域と連携して今後も学校運営をすすめていきたい。